

大空 —放哉だより—

第169号 2025.9.5

発行:小豆島尾崎放哉記念館 〒761-4106土庄町本町甲1082 ☎62-0037

俳句風鈴展



8月2日(土)から31日(日)まで、俳句風鈴展を開催しました。猛暑ではありましたが悪天候で中断することもなく、無事に終わることができました。放哉ファンをはじめ、瀬戸内国際芸術祭2025夏会期中だったこともあり、放哉を知らなかったという方にもご来館いただくことができました。



座談会『私の好きな放哉句』



出席者が選んだ『私の好きな放哉句』
 入れものが無い両手で受ける
 障子あけて置く海も暮れ切る
 とんぼが淋しい机にとまりに来てくれた
 追っかけて追ひ付いた風の中
 お祭り赤ん坊寝てある
 夜明けが早い浜で顔を合す
 枯枝ほきほき折るによし
 故郷の冬空にもどつて来た
 あらしの中のぼんめしにする母と子
 山に登れば淋しい村がみんな見える
 咳をしても一人
 来る船来る船に一つの島
 月夜の葦が折れとる
 山の和尚の酒の友とし丸い月ある

8月20日(水)、座談会を開催しました。参加者には事前に好きな放哉句(小豆島で作った句)とその理由をまとめていただき、当日は順番に披露しました。それぞれが選んだ理由には、「自分の生活に似ていて親しみを感じた」「放哉らしい」「情景が想像できて分かりやすい」「今も昔も変わらないことに共感した」等の意見がありました。その後、「放哉」南郷庵友の会 森克允さんからそれらの句について「いつ頃作られた句で、その時の放哉の暮らしぶりはどうだったか」「なぜ漢字ではなく、平仮名や片仮名で表現されているのか」等の説明があり、他の出席者からの意見も伺いました。

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

●放哉だより発行日
記念館休館日 資料館休館日

一般的な代表作といわれる「咳をしても一人」「入れものが無い両手で受ける」に比べると、それ以外の句が取り上げられる機会は少なかったので、より放哉を感じ、放哉に近づくことができた一夜になりました。ありがとうございました。

